

## 池田・五月山散策



池田城跡



池田駅前

日 時 : 令和4年9月22日(木)  
集合場所 : 阪急池田駅 改札口  
集合時間 : 午前10時  
参加人数 : 28名(ガイド2名)  
行 程 : 約8km

家を出しな大雨、阪急電鉄のトラブルで30分遅れて出発

その頃にはすっかり雨も上がり、気持ちのいい日差しなり快適な池田散策になりました。

コース

阪急池田駅→池田栄町商店街→ビリケンさん→旧加島銀行→落語ミュージアム→呉服座→西光寺→吉田酒造→稲束家(いなつかげ)→伊居太神社(いけだじんじや)→池田五月山動物園→池田城跡→昼食→大広寺→小林一三記念館→塩野義製薬社長宅・ほほえみの園特別養護老人ホーム→池田回生病院→池田文庫→もめん坂→さくら通り→阪急池田駅

### 稲束家



稲束家は「甲字(麴)屋」といい、元禄年間は何屋を、その後は酒造業などを営んだ池田有数の商家である。同家は近世、近代を通じて著名な文化人や名士が訪れる文化的サロンを担ってきた。建物は1700年代の中頃のものとされている。間口5間半規模の切妻造、本瓦葺の平入つし2階建商家で、南方を下手とし、土間奥に角屋を出し、北西方に座敷を張り出す。正面は大きな虫籠窓を開け、庇と2階壁面を北に延ばして表門をとる。このような低い2階壁面に虫籠窓を設ける近世商家の原形を留めた本瓦葺による外観は、往時の近世在郷町池田の隆盛を象徴している。

### 吉田酒造



池田は江戸時代は諸街道が集まり物資の中継地として賑わい、特に酒造業は江戸初期の最盛期には42軒の酒造家が確認された。吉田酒造も元禄期頃よりの酒造屋であるが、現在の主屋は明治10年の火災後に再建された。本瓦葺木造2階建、南を切妻造、北を入母屋造、方5間の規模で、軒高のある2階壁面と虫籠窓の窓枠と格子は黒漆喰塗とし両側に袖卯建を付ける。通り土間に沿って部屋を2列に配する大型町家で、さらに主屋に付属する蔵、仕舞屋風の高塀も含めた佇まいは、酒造業で繁栄した往時を今に伝える。緑一

## 呉服と穴織

呉服(くれはとり)→現在の町名表記→呉羽町

呉織が祀られたのが<呉服神社>

呉服は、古代中国の呉の国から伝来した織り方によって作られた織物のことをいった。しかし、単に「呉の服」の意味から、「呉服」になったわけではない。古く、呉服は「くれはとり」と言い、「呉織」とも書かれた。この「呉服(くれはとり)」を音読したのが「ごふく」である。呉服とは絹織物をさす。

穴織(アヤハトリ)→現在の町名表記→綾羽町

漢織が祀られたのが<伊居太神社>(綾羽)とされています

## <参考までに>

西宮市にはふたりが大日如来を勧請して創立したとされる「津門神社」

武庫の水門に上陸した彼女らが故郷を慕って松を植え、その傍らにあった池の水で初めて染色をしたという「染殿池」がある。

この付近には「津門綾羽町」「津門呉羽町」などの地名も残っている。



## 大広寺



## 白龍のお話し

昔々、山門に住んでいた龍が、毎晩弁天池に水を飲みに行き  
バシャバシャと音をたてるので、

住職は眠れず、これをなんとか辞めさせようと考え

「眼を塗りつぶして見えなくしてしまえば降りて来られないだろう」とひらめいた！！

そこで昼間に龍の眼と全身を白く塗りつぶしたところ

龍は降りてこれなくなり、ずっと山門に留まり守り続けている



旧加島銀行



伊居太神社長い階段



池田呉羽座



池田五月山動物園 ウオンバット



池田城からの眺め



池田城庭園



塩野邸(その昔薬草園)



小林一三記念館



さくら通り

### 纏め

池田の古い町並みを歴史を感じつつ散策し、  
 呉服と穴織は我が街西宮にもゆかりがあると聞きビックリ！  
 なんと津門神社(つどじんじゃ)とは。勝手にネット検索で写真を載せました。  
 夏祭りと秋祭り氏子さんの宴のお手伝いに行った事がありましたが、全く知りませんでした。  
 酒蔵の跡地がマンション。我が街今津郷・西宮郷も一緒衰退の一途を辿っている。  
 跡地はマンション、電気量販店、大型スーパーどこも一緒です

出発が 30 分遅れた分植物園は割愛しました。  
 怪我も無く無事に阪急池田駅で解散出来ました。  
 皆様のご協力感謝申し上げます。  
 記録写真にご協力頂きました松田さん・編集にご協力頂きました平山さん有難う御座いました。

令和 4 年 9 月 23 日 記録 花島